

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支えあう仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。	特別活動 (夏季休業中の部活動時間)

【題材】 大船渡中学校の生徒との部活動交流

・部活動の活動場所の提供と交流を目的とし、大船渡中、金ヶ崎中と3校での1, 2年生による部活動交流

【対象】 1年生、2年生の運動部に所属する生徒(159名)

【実践の概要・詳細】

本校では、大船渡中学校との交流を基軸として、「絆」の心を育てることを目標としており、復興教育を学校経営の重点の一つとして設定し取り組んでいる。平成24年度は、本校の3年生が大船渡中学校を訪ねて合唱交流を行ったが、今年度の交流をするにあたり大船渡中学校に希望を伺ったところ、生徒の部活動の活動場所に困っているということだった。そこで、今年度は合唱交流ではなく、本校と同様に大船渡中学校と交流している金ヶ崎中学校と3校での部活動交流を行うことになった。

開催時期については、授業日は避けて夏季休業中に行うこととした。

<日 時> 平成25年8月1日(木)
9:00~13:00

<会 場> 金ヶ崎町立金ヶ崎中学校
奥州市立東水沢中学校

<参加校および生徒数>

大船渡中学校	122名
金ヶ崎中学校	105名
東水沢中学校	159名

<参加運動部および活動場所>

- ・野球(*雨天のため金中大体育館)
- ・ソフトテニス男女 (金中)
- ・サッカー (東中)
- ・バレーボール男女 (東中大体育館)
- ・卓球男女(東中小体育館) ・柔道男女(金中武道館)



<交通手段>

大船渡中学校・・・借り上げバス（3台）
金ケ崎中学校・・・スクールバス(金ケ崎町)
東水沢中学校・・・借り上げバスに便乗



<日程>

7：30 大船渡中生徒 学校集合
7：40 〃 出発
9：00 東水沢中学校に到着

*各会場に到着後 部ごとに開会行事を行う

- | | |
|-----|-----------------------|
| 次第) | 1、開会の言葉 |
| | 2、日程説明（試合時間、組み合わせなど） |
| | 3、自己紹介（部長、キャプテン、顧問など） |
| | 4、交流（練習試合、合同トレーニング等） |
| | 5、集合・感想発表 |
| | 6、先生方から |
| | 7、閉会の言葉 |

12：00 大船渡中生 昼食（体育館で）
12：40 *大船渡中、東中生徒はバスで東中に移動
13：00 大船渡中生徒 東水沢中出発

【生徒の感想】

大船渡中学校テニス部の人とは初めてお会いしましたが、とても被災したとは思えないほど元気にテニスをしていました。みんな、それぞれ声を出して気軽に自分たちに話しかけてくれました。大船渡中学校のみなさんには追い込まれても最後まであきらめずに粘る力がありました。そこが大船渡中学校のすごいところだと思います。是非、また何かの機会があったら一緒にテニスをしたいです。 <2年 男子>

【まとめ】

<成果>

- ・部活動交流では、大船渡中学校の生徒の明るく活気あふれる姿から、生きる強さと他者への思いやりを学んだ。また、自分たちにできる復興支援についても考えるきっかけになった。

<課題>

- ・学校交流会の内容や開催時期については、相手校に負担をかけないように相談して進めることが大切だと感じている。
- ・部活動交流への参加は今年度1、2年生のみで行ったが、全校生徒がかかわるためにも来年度は中総体前の開催を計画したい。
- ・部活動交流会は大変意義のある活動だと考えるが、部活動の種類により、交流会を開催できない部の生徒をどのような形で参加させるかという点が今後の課題である。



教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【いきる】 3【そなえる】	④【夢や希望の大切さ】 夢や希望をもつことは、生きる価値を見出すことであり、つらく 厳しい状況乗り越えられることにつながることを実感する。 ⑤【やり抜く強さ】 救援活動などに従事した人々の働きと苦労を通して、どんな状況 においてもやり抜く強さについて考える。 ⑬【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成23年3月11日に発生した東日本大震災の様子と被害の状況 について理解する。	総合 (2時間)

【題材】 復興教育講演会 演題「今 自分たちにできること」

講師：前陸前高田市立米里中学校校長 阿部 重人 氏

【対象】 全校生徒（469名）

【実践の概要・詳細】

阿部先生をお招きして、阿部先生ご自身が編集した映像や写真を見ながら、震災時の状況や被災体験、避難所での生活、被災地の復興の様子を伺った。また、防災に関する必須項目や緊急時の対処法等のお話をいただいた。

1、目 的

震災時の様子や被災地の現状を知り、あらためて命の尊さや思いやりの心など人としての生き方を学ぶとともに、自分にできることは何かを考える機会とする。

2、日 時 平成25年8月23日（金） 13時40分～15時00分

3、会 場 奥州市立東水沢中学校 大体育館

4、内 容 東日本大震災の映像と写真、体験にかかわるお話

<次 第>

- 1) はじめの言葉
- 2) 講師紹介（学校長）
- 3) 阿部重人先生のお話
- 4) 生徒感想発表およびお礼の言葉
（3年生2名）
- 5) 謝辞（学校長）
- 6) おわりの言葉



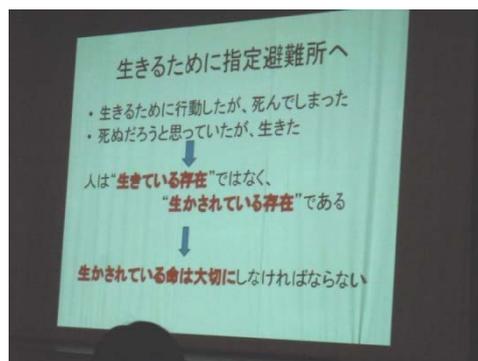
5、事前および事後指導について

<事前> 阿部先生からいただいた手紙を各学級で担任の先生が読み聞かせ、講演会に参加する心構えの指導を行う。

<事後> 全校生徒に感想を書かせ、後日感想をまとめたものを阿部先生に送る。

【生徒の感想】

- ・ 3. 11 から今まで生活してきた被災地の皆さんにとっても励まされます。（2年男子）
- ・ 「何もない街ということは、理想の街を作ることができる」という阿部先生の希望と理想にあふれた言葉に勇気をもらいました。一緒に頑張りましょう。（2年男子）
- ・ 東中生みんなで詳しく知ることができてよかった。忘れていたのでは・・・と不安があった。（3年女子）
- ・ 家族に反抗ばかりしている自分を改良して、「あいさつ」を心がけようと思った。（1年男子）
- ・ 震災当時は石川県に住んでいたため、自分には関係ないと思っていた。知ることができてよかった。（今年4月に転入の2年女子）
- ・ 南三陸と同じようなことを陸前高田の人たちも経験したのだなと思った。3. 11 のことが忘れられているような不安があったので、今日、東中生みんなでお話を聞くことができて良かったです。
（被災し南三陸町から H23 転入の2年女子）
- ・ 「阿部先生のほうがつらいはず」・・・こう思えるのも、阿部先生のおかげです。（1年男子）
- ・ 自分の目で確かめたい。（1年女子）
- ・ 沿岸にボランティアに行ったとき、（被災地の人が）温かく迎えてくれて、なんだか不思議に思った。乗り越えた強さなのかなと思った。（3年女子）
- ・ 亡くなった方々のためにも、しっかりと生きていかなければならないと思った。未来をつくるのは自分たちなのだから。（3年男子）
- ・ 「忘れない」ために“知る”、“知ろうとする”のだ。（3年男子）



【まとめ】

<成果>

- ・ 講演会では、実際に被災体験を聞き映像や写真を見ることにより現状を理解するとともに、つらい経験をしながらも、郷土の復興のために懸命に生きる阿部先生の姿や前向きな考え方に触れ、自分たちができることをより深く考えることができた。

<課題>

- ・ 生徒たちが抱いている、“被災地のために何か力になりたい”という心情を、今後どのような形で行動に結びつけるか、ボランティア活動や現地の視察など、教育課程と関連付けながら生徒の前向きな気持ちを生かす場所や場面をどう設定するかを検討していきたい。

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支えあう仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。 ⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・伝統芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	教科(技術家庭) 学級活動 行事(文化祭)

【題材】 “はるかのひまわり”の継承活動

内容) ・ひまわりの栽培
 ・収穫した種の配布

【対象】 3年生(157名)

および全校生徒、保護者、地域の方々

【目的】 “はるかのひまわりの活動”を通して、震災を風化させず、復興に向けて共に支えあうという意識を促す。



H24年度の伝統伝達式 ⇒



【実践の概要・詳細】

本校は、平成23年度に協力校である大船渡中学校の3年生を招待して合唱交流を行った。その際に本校が送った支援物資に対するお礼として、大船渡中学校から“感謝の旗”と“はるかのひまわり(種7粒)”が贈られ、当時の3学年委員会が伝統伝達式で後輩に“旗”と“ひまわりの種”を引き継いだ。以降、ひまわりの栽培と旗の継承を3学年の取り組みとして行ってきた。



今年度は、5月に3年生全員で種まきをして、7粒から2年を経て約3万粒に増えた種を10月の文化祭で生徒や保護者、地域の方々に配布した。その際、種を入れる包み紙に“はるかのひまわり絆プロジェクト”(「はるかのひまわり」を育て採取した種を配布する際に由来を伝え、災害の悲惨さと共に命の尊さを再考し、「人の尊厳」と「人との関わりの大切さ」を知る感性豊かな地域社会を醸成する活動)の紹介と育て方を印刷し、3年生一人ひとりからの手書きのメッセージを添えて、復興にむけて共に支えあうという意識の向上を図った。



<取り組みの経過>

- 5/21 ・技術家庭の授業の一環として、ひまわりの種まきを行った。
- 10/15 ・学級活動の時間に学年委員会の生徒が主体となり、生徒一人ひとりのメッセージと種を入れる包みの作成を行った。
- 10/26 ・文化祭1日目のステージ発表で、3学年委員が“はるかのひまわりの活動”を紹介した。
 - ・帰りの短学活で3学年委員会の生徒が1, 2年生にひまわりの種を配布した。
- 10/27 ・東水沢中学校文化祭の来場者に、ひまわりの種を配布した。



【まとめ】

<成果>

- ・“はるかのひまわり”の活動では、自分たちが育てた“種”を人々に配布することで、共に支えあいながら生きるということを学び、心のつながりを深めることができた。

<課題>

- ・“はるかのひまわり”の活動は、大船渡中学校との交流の証として本校の伝統になりつつあるが、被災県民として、被災体験を風化させないための手立てを工夫することが課題だと感じている。

